

【2018年4月7日～2018年4月13日までの推移】

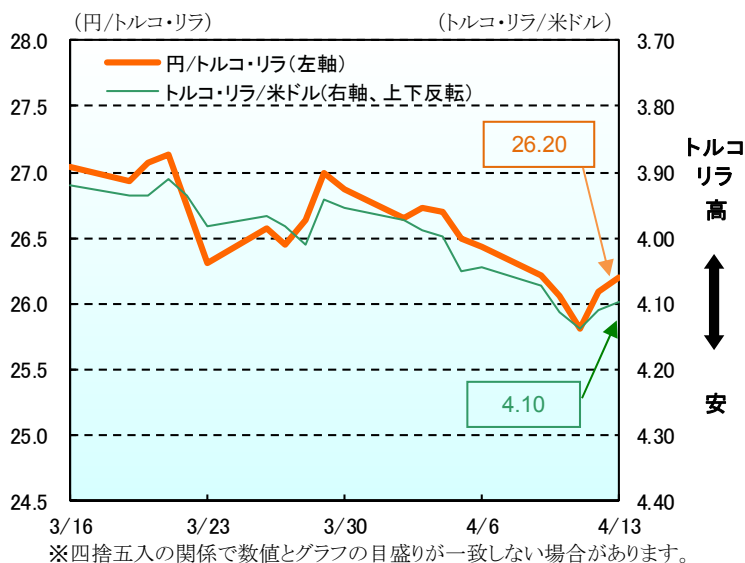
【1】先週の回顧

先週のトルコ・リラ相場は1週間を通して見ると対米ドル、対円で下落しました。またトルコの2年国債金利はほぼ変わらずとなりました。

2月の経常収支が発表され、前年同月対比で赤字が拡大したものの、市場予想対比では小幅なものとなりました。

シリアに対して米国が軍事行動に踏み切るとの観測から、地政学リスクへの懸念を受けて通貨、債券ともに軟調な動きとなり、トルコ・リラは一時対円、対米ドルで最安値を更新しました。しかし、ユルドゥルム首相やエルテム大統領顧問が、通貨安に対して必要に応じて措置をとると発言したことから、週末にかけては買い戻される展開となりました。

【トルコ・リラ 為替推移】 (2018年3月16日～2018年4月13日)



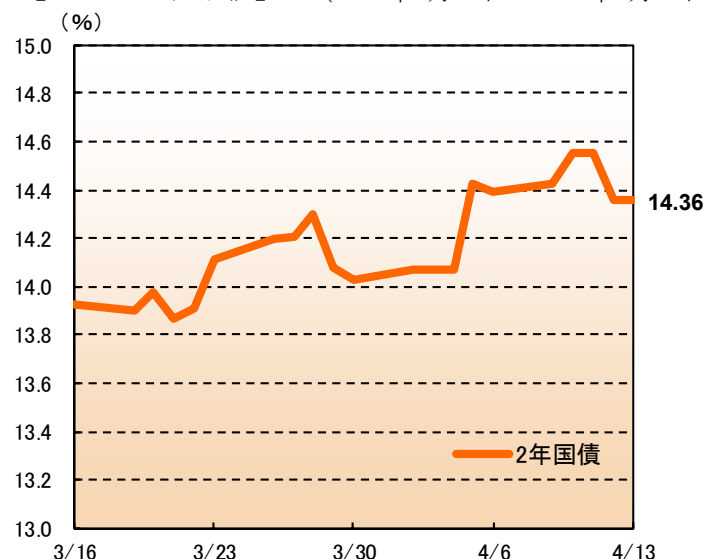
【2】今週の見通し

今週はトルコでの主要な経済指標の発表は予定されていません。

市場では、シリアをめぐる地政学リスクの動向と、通貨安に対する金融政策動向への注目度が増えています。ただし米国は英仏と共同でシリアへの軍事行動に踏み切った一方で、限定的な攻撃であったことや、関係国による報復の連鎖といった事態は避けられたとの見方から、市場の懸念はやや後退しています。

引き続き、シリアをめぐる地政学リスクの動向やトルコと欧米諸国との関係、金融政策動向を示唆するような関係者の発言に注意を払っていく必要があります。

【トルコ 金利推移】 (2018年3月16日～2018年4月13日)



(出所:ブルームバーグより大和投資信託作成)

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>